

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 はなみずき)

事業所番号	0672300431		
法人名	山形小木医科器械株式会社		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	朝日町大字宮宿320-6		
自己評価作成日	平成28年 11月 3日	開設年月日	平成 18年 3月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしさを大切に生活をしていただけるよう、一人ひとりの要望に出来る限り応え、支援に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成28年 12月 6日	評価結果決定日	平成28年 12月 21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は「その人らしさを大切に」の理念を念頭に置き、日頃の会話などを通して利用者の思いや利用者ができることを把握するように努めて職員の気づきを出し合い、話し合いながら理念の実現に向けたケアの実践に取り組んでいる事業所である。食事は事業所内で調理しているが、特に夕食については当日に献立の希望を聞きながら職員と利用者が出し物・調理・後片付けを一緒に行き、食の楽しみと自立支援に向けた活動を行っている。また、運営推進会議は行政・地域代表・家族代表の参加を得ながら活発な意見交換が行われており、意見を取り入れながらサービスの向上につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎月の職場内研修でも唱和し、共有している。その人らしさを大切に一人一人に合ったサービスを実践しようと心掛けている。	理念を事業所に掲示し、また毎月の職員研修時に唱和して理念の共有を図っている。ユニットごとに毎年職員で話し合いユニットの目標を立てている。職員は入居者一人ひとりの得意なことなどに注目し、できることを大切にすることでその人らしさのケアの実践に努め理念の実現につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、グループホームの行事に招待し、挨拶を通じ日常的に交流している。	「地区交通安全いきいきクラブ」の七夕飾り、隣接小学校運動会での応援、夏祭り子ども神輿の来訪などの地区行事での交流や、事業所行事の芋煮会・夏祭りなどへの招待、事業所の広報誌の回覧、中学生の職場体験や小学生との花植え作業などで地域との交流を進めている。また町内会総会にも参加し地域に根差した事業所運営に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、認知症の人の理解を得られている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で挙げていただいた意見や問題点を話し合い、サービスが向上するように努力している。	行政(地域包括)、区長、民生委員、家族代表が出席して2か月に1回開催している。事業所の活動状況、事故事例の報告や写真による日常生活の状況報告を行ない、参加者からは報道事例などを通して災害対策など様々な意見が出され、活発な意見交換の場となっている。出された意見からサービスの向上につなげる努力をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者や施設長代理を通じて連絡を取り合い、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に役場の担当職員が出席しており、情報交換の場となっている。また町で行っているケアマネ連絡会議に管理者等が参加し、常に相談や情報交換しながら協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>ユニット内でそれぞれ拘束とならないように声かけの工夫や介助の工夫を行なっている。就寝時に限っては転倒注意の方に限りご家族の許可を得て離床センサーを使用している。</p>	<p>職場内研修の中に身体拘束防止に関する内容を毎年実施して職員に周知している。職員も禁止対象となる具体的な行為等について理解している。危険を伴う利用者などに離床センサーを使用する場合は家族の同意を得ながら実施している。また帰宅願望が強い場合は行動パターンなどを把握しながらカンファレンスで話し合い、利用者の思いに沿った対応をすることで鍵をかけない工夫や安全に暮らせるような工夫に取り組んでいる。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職場内研修を行い、どのような対応で虐待になってしまうかを学び、意識を高め防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職場内研修で学ぶ機会を設けている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者や担当者を中心に適切に行っている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の方の面会時や懇談会で意見を聞き、運営に反映させている。</p>	<p>年度当初に昼食を取りながら家族懇談会を開催し、和やかな雰囲気の中でご家族から意見をいただく機会を設けている。また日頃の面会時にも職員から話しかけて意見を表しやすい環境づくりに努め、出された意見は活動に反映させるよう努めている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>各ユニットの会議、各委員会で意見を伝える事が出来ている。</p>			

自己 外部 項目		自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	代表者は状況を把握していただいていると思われる。		
13	(7)	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	一人ひとりが知識が得られるように研修に行かせてもらっている。職場内でも月1回研修を行っている。	職場内研修として虐待防止や感染管理、接遇、コミュニケーションなどの研修を内部講師の他外部講師も依頼しながら毎月実施している。また施設長との面談を年2回実施し職員が自主点検しながら力量にあった指導や外部研修参加を進め、職員の資質向上に努めている。	
14	(8)	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	同業者との交流として、外部研修や交換実習などに参加し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡協議会の研修会及び交換研修に参加し情報交換するとともに、交換研修で得られたことを取り入れサービスの質の向上につなげている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	不安な事や困っている事を、一対一になり話を伺っている。相手のペースに合わせて生活に慣れるまで、ゆっくり関係作りに努めている。		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	本人の要望を中心としながらも家族の意見を伺い安心していただけるように努力している。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	その時に必要としている支援が、何かを見極め必要な環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方の意見を尊重し、食事準備や掃除など一緒に行う気持ちで取り組んでいる。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話で日々の状況を伝え、相談をしたり情報を共有し、互いに支え合う関係を目指している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来てくださった時は、ゆっくり過ごして頂けるように努めている。関係の継続が難しい方もいらっしゃる、支援できていない場合もある。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	独りを好む方もいらっしゃるが、体操やレクリエーション、昔の話などして皆で交流できる場を作っていくよう心掛けている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設の外で会った時はお声を掛けるが、相談やフォローは管理者が行なっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方の話に耳を傾け、職員間で話し合い出来るだけご本人の意向に添った生活が出来るよう支援をしている。	事前アセスメントで利用者の生活歴を把握するとともに、会話を通して趣味や希望、できることを把握することに努めている。また普段の会話での利用者の言葉に耳を傾け記録して職員間で共有し、その人の思いを受け止めることに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方からの情報や、聞き取りが可能な方はご本人から話を伺ったり、これまでの生活リズムにできるだけ添った生活が出来るように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々、心身の状態に変化はないか、生活する中での様子を見て、利用者の方の現状の把握に努めている。</p>			
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>より良い生活をして頂く為に、ご本人の思いや必要としている介護をご家族やご本人と話し合い、職員間で意見を出し合い作成している。</p>	<p>半年ごとにモニタリングと介護計画の評価を行っている。また事前に家族のご意見を伺いながら、ユニット会議で意見を出し合いながら介護計画を作成している。計画作成に当たっては、利用者のできることを中心に職員の気づきが計画に反映できるよう努めている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子、体調の変化や気付きなどを記録し、職員間で情報を共有し、新たな支援が必要になる際、今後の支援計画に活かしている。</p>			
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域とのつながりを大切に行事などに参加している。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご家族やご本人の希望に添ってかかりつけ医に受診している。利用者の方の健康面等の情報を共有している。</p>	<p>かかりつけ医を継続するように努め、通院は原則家族付き添いであるが必要に応じて職員が通院介助を行っている。通院時はバイタルなどの情報を主治医に情報提供し、受診結果は記録して職員間で情報共有し、家族には電話で連絡するとともに毎月のお便りの中で通院状況の報告も行っている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週2回非常勤の看護師が健康管理を行なっている。日々の状況を連絡ノートを活用し、相談している。勤務以外でも電話にて相談したり、場合により駆けつけてもらえる体制があり、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>面会に行き、日々の状態を看護師や、リハビリ担当者に確認している。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用者の方やご家族と終末期のあり方を話し合い、職員の中でも共有している。</p>	<p>看取り及び重度化への対応の指針を作成し、利用開始時に説明し家族から意向確認書を提出していただいている。状況の変化に伴い医療機関・家族・事業所で話し合いながら意向を確認している。看取りの研修などを行いながら重度化に対応する体制づくりに努めている。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルをつくり、定期的に訓練をし向上に努めている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難訓練を行い地域の方にも参加して頂き協力体制を築いている。水害の訓練は行なっていないので関係機関の助言も聞きながら行なっていきたい。</p>	<p>年2回の避難訓練を行ない、1回は消防署及び地域住民の参加も得ながら昼・夜想定した防災訓練を実施している。入居者の部屋の入口に避難手段(徒歩・車椅子等)を掲示しわかりやすい工夫を行っている。食料や非常袋などの備蓄も行っている。運営推進会議で出された水害への対策については消防署に危険区域等の情報収集を行う予定である。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者の方には敬語を使い、方言も交えながら話し、その人らしさを大切にしている。よく話を伺い、否定的な言葉かけをしないよう心掛けている。</p>	<p>職場内研修で接遇やコミュニケーションについて学びを深め、利用者を人生の先輩として敬いながら、否定的な言葉かけをしないなど人格の尊重に留意した話しかけや対応を実践している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の気持ちを組みとり、自己決定できるよう導く努力をしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	場合により利用者の方に協力して頂く事もあるが、一人ひとりのペースで生活していただけるように支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ衣類ばかりにならないように、起床時、入浴時など希望を伺い一緒に選び、鏡を見ながら整容して頂いている。季節によって衣類の整理を行っている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決める時に食べたい物をお聞きしたり利用者様の意思にお任せし、調理準備、後片付けなど一緒に行っている。買い物も一緒に行き食材を選んでいただいている。	三食とも事業所内で調理している。献立は利用者の希望を聞きながら、自家菜園で収穫された野菜を使用するなど季節性や地域性を大切にしながら作成している。当日のメニューをリビングに張り、利用者が楽しめる工夫も行っている。夕食はその日の希望を伺いながら、買い物・調理・後片付けを利用者と一緒に行っている。その他外食や芋煮会などの行事食など多彩な食を楽しむ支援を行っている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量に応じて量を調整しお出ししている。又、水分量がどれ位摂れているかも確認し、状態に応じた対応を行なっている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は声がけを行い、出来ない方は介助にて毎食後行なっている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄ケアが必要な方に関しては、トイレの間隔、時間を見て声がけをし、誘導を行っている。下着が汚れることの軽減に努め支援行なっている。	排泄パターンシートを活用して一人ひとりの排泄パターンを把握して適時の誘導を行い、排泄の自立支援に努めている。職員が話し合いながら計画的な排泄支援を行うこととおむつ使用を減らすなどの効果があらわれている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を解消する為に、乳製品や乳飲料を食事や水分補給の中でお出しし、お勧めしている。又、体操やお腹のマッサージ行い自然な排便を促している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご希望の時間がある方は、他の方と時間が重なってしまう際は、利用者同士で話し合い、決めていただく事もある。入浴の見守りが出来るかによって、事業所の都合になってしまう事もある。	入浴を好む利用者が多く、週3回から毎日入る方など、利用者で相談していただきながら希望に合わせた入浴を行っている。りんご風呂を楽しんだり、座位型機械浴の準備して体調や身体状況などに合わせた入浴支援を行っている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分から休みたい時に休める環境がある。介助が必要な方に関しては状態や様子を見て声がけし休んで預けるよう介助している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬の目的、用法用量について把握出来るように、薬セットの際、処方箋表を見ながら一つひとつ確実に入っていることを確認している。作用による変化などの確認に努めている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出したり、家事やゲーム、買い物、散歩など、それぞれの得意なこと、気分転換が出来る事を探し支援している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族からの希望がある場合は、協力しながら支援に努めている。季節や月毎に外出できる機会を作り、出かけることもある。	散歩や夕食の買い物などの日常的な外出のほか、行事として紅葉を楽しむなどの季節ごとのドライブや自宅を見に行くなど個人的な外出支援も行っている。駐車場を活用した芋煮会や夏祭り、自家菜園など戸外で楽しむ工夫も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご自身で管理したいと希望はあるが、管理が難しい事から事務所で預かりしている。買い物や外出した時など好きな物を購入していただけるよう支援している。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話の希望があった場合や、ご家族から連絡があった場合、取り次いで支援している。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>四季が感じられるように装飾に工夫したり居心地良く過ごせるよう温度調節している。</p>	<p>共用スペースには畳やソファなどが設置され思い思いにくつろげる空間となっており、また利用者が作ったものを展示したり季節を感じる装飾を行って居心地よい空間づくりに心掛けている。温度や湿度など時間的に把握し、季節に応じて加湿器の設置などを行い適切な空調管理を行っている。</p>		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファで気の合った方と話したり、畳みスペースでテレビを観て、ゆったり過ごせる空間がある。</p>			
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生活するのに必要な物や、慣れ親しんだ物など置き、居心地の良い空間で生活出来るよう工夫している。</p>	<p>和室と洋室があり、状況に応じて選んでいただいている。使い慣れた物や家族の写真、趣味の作品、テレビなどを置きながら、自宅にいるような雰囲気でも暮らせる工夫を行っている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室やトイレが分かりやすいように表記している。「できること」を見極め福祉用具を使うなど、安全に自立した生活ができるように工夫をしている。</p>			